

A 上位3割に入れる子以外は、戦略的ランクダウンの検討も

松元秀文

伸栄学習会統括

地元密着型の個別指導塾で、教科内容から勉強のやり方、志望校選びに至る、生徒のあらゆる質問に随時答えるベテラン講師。



少しでもランクの高い高校に行きたい、行かせたいと思うのは、多くの受験生や親御さんの望みでしょう。当塾のある千葉県なら、各中学校の成績上位者は、公立であれば県立千葉高等学校や県立船橋高等学校といったトップ校に進みます。

無事お子さんがトップ校に進められた親御さんは、今度は東大、早慶、国立大医学部への進学を望まれます。しかし、これらの大学に進学するのは学年の上位3割ぐらい。残り7割は、親御さんが期待するほどの進学はできません。周りも優秀な生徒さんばかりなので、下位の成績で入学した子が入学後に上位グループまで

の上上がることもまずありません。そんな現実にもぶつかり、モチベーションを失うお子さんは少なくありません。極端な場合は、大学受験から逃れるためにトップ校から専門学校への道を選ぶ例もあります。私たちは、そうした事例をいくつも見てきました。

そうならないためにどうするか。じつは、大学受験までを視野に入れるなら、偏差値を5ほど落としたりした高校に進学するのが一つの手です。たとえば、自分の偏差値が65なら、60あたりの高校に進学するのは、ワランク下の高校に進んでしっかり三年間頑張れば、成績評定で四・三

ぐらいのスコアを獲得できます。地域で二、三番手の公立高でこのぐらいの成績をマークできれば、かなりいい大学への指定校推薦やAO入試への道が開けます。

多くの親御さんは、大学は学力勝負の一般入試で入るべきと考えていて、わが子がハイレベルな競争の中で学力を身につけ、一流の大学に進んでほしいという期待を抱きがちです。しかし、その方法論で幸せになれるのはトップ3割だけ。わが子がそこに入れるかどうか、よく現実を見る必要があると私は思います。

同じような戦略は、偏差値50前後の子供たちにも有効です。このあた

りの偏差値帯には、工業科や商業科などの専門学科を持っている学校が多いのですが、ここに隠された受験テクニクがあります。

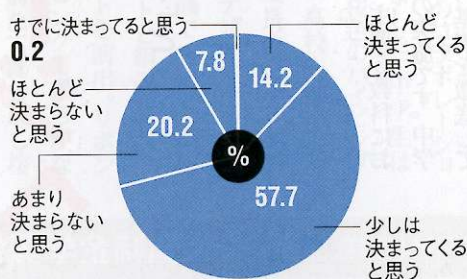
たとえば、野球で甲子園に出たこともある千葉県立千葉商業高等学校。あまり知られていませんが、この種の高校は一橋大学の商学部をはじめ、多くの国公立大学の法経系学部への推薦枠を持っています。しかも、在学中に日商簿記一級を取る生徒が、毎年二〜三人いますし、税理士資格を取った子もいます。これは就職でも有利でしょう。岐阜県立岐阜商業高等学校は毎年二〇〇人程度、宮崎県立宮崎商業高等学校は毎年五〇〇人程度も、国公立大に進学させています。

じつは当塾の塾長の長男も、高校は園芸科に進学。そこから千葉大学に入学し、さらに東大大学院の先端生命科学専攻に進みました。

さらにこの不況下でも、就職希望者数の何倍もの高卒求人を集める商業高校や工業高校は珍しくありません。就職率の悪い大学に進むより、よほど有利かもしれません。

高校進学が人生のゴールではありません。場合によってはそこで上を目指さず、戦略的ランクダウンを検討してはいかがでしょう。

高校受験で子供の将来は決まってしまう？



※2010年1月調査。中3受験生の母600人が回答。出典：第一生命経済研究所

高校を狙ったほうがいいのは

どんな場合ですか？

① ワンランク下の